

ベストミックス・インベストメント News Letter

2013年12月3日号

◇豪最大の銀行コモンウェルス銀行傘下の運用会社、 ファースト・ステート・インベストメンツ社の注目の新戦略 「ワールドワイド株式運用戦略」で絶対リターン運用を実践する

我が国の年金資産運用は、フルインベストメントでベンチマークに対するアルファを狙うという相対リターン型運用が中心だったが、絶対リターンを運用目標に掲げる、オルタナティブ資産への投資を加えるなど、ここ10年ほどで日本の年金運用も大きく変化してきた。こうした変化を迫られた原因を突き詰めると、絶対リターンを前提に制度設計されているにもかかわらず相対リターン運用が主体であるという、日本の年金運用の基本的な構造に行き着く。ロングオンリーで絶対リターンを目標とする投資戦略は世界にないのであるか。もしかしたら私たちが知らなかっただけなのではないか。今回取り上げるファースト・ステート・インベストメンツ社(以下、FSI社)の「ワールドワイド株式運用戦略」はこうしたジレンマの解消に貢献できる可能性がある。

「ワールドワイド株式運用戦略」の基本コンセプトを簡単に紹介すると、

- ① ロングオンリーで絶対リターンを追求する投資戦略
- ② 高い倫理観を持った企業への投資
- ③ 組み入れ銘柄は主にエマージング市場で安定的成長を遂げている世界の企業。もはや先進国企業と新興国企業を上場国で区分して投資を行う意義は低下。

というようなことが注目すべきポイントとして挙げられる。いずれもこれまでの株式運用商品には見られなかったポイントである。以下では、このような際立った特徴を持つ「ワールドワイド株式運用戦略」についてもっと良く理解いただけるよう、少し詳しくご説明しよう。

◇140年間守り抜かれてきた運用哲学：「リスクとは元本の毀損のことだ」

FSI社は1873年にスコットランドで誕生した運用会社で、2000年に豪最大の銀行であるコモンウェルス銀行の傘下に入った。経営母体には変化があっても、FSI社の「絶対リターンを追及する」という運用哲学の根幹は、創立以来140年間微塵も揺らいでいない。絶対リターンを追及するという同社の運用哲学は、運用パフォーマンスとしてきっちりと実現され、世界中の投資家の信頼と支持を集めた。それを如実に物語るのが、2000年の豪銀行傘下入りしたときに約1,000億円だった運用資産が、2013年9月末現在で約5兆4,000億円に増大した事実である。

当資料をご希望の方は、メールにてお問い合わせください。

メールアドレス：

bestmix@bestmixinvestment.com